

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

|      |          |
|------|----------|
| 学校名  | 広島国際大学   |
| 設置者名 | 学校法人常翔学園 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名           | 学科名           | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 |             |          |     | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|---------------|---------------|-----------|-----------------------|-------------|----------|-----|-------------|------|
|               |               |           | 全学<br>共通科目            | 学部等<br>共通科目 | 専門<br>科目 | 合計  |             |      |
| 保健医療学部        | 診療放射線学科       | —         | 0                     | 6           | 56       | 62  | 13          |      |
|               | 医療技術学科        | —         |                       |             | 315      | 321 | 13          |      |
|               | 救急救命学科        | —         |                       |             | 17       | 23  | 13          |      |
| 総合リハビリテーション学部 | リハビリテーション学科   | —         |                       | 4           | 271      | 275 | 13          |      |
|               | リハビリテーション支援学科 | —         |                       |             | 56       | 60  | 13          |      |
| 医療福祉学部        | 医療福祉学科        | —         |                       | 6           | 118      | 124 | 13          |      |
| 心理学部          | 心理学科          | —         |                       | 10          | 48       | 58  | 13          |      |
| 医療経営学部        | 医療経営学科        | —         |                       | 6           | 57       | 63  | 13          |      |
| 看護学部          | 看護学科          | —         |                       | 5           | 114      | 119 | 13          |      |
| 薬学部           | 薬学科           | —         |                       | 4           | 66       | 70  | 19          |      |
| 医療栄養学部        | 医療栄養学科        | —         |                       | 5           | 67       | 72  | 13          |      |
| 健康科学部         | 心理学科          | —         |                       | 7           | 13       | 20  | 13          |      |
|               | 医療栄養学科        | —         |                       | 2           | 20       | 22  | 13          |      |
|               | 医療経営学科        | —         |                       | 7           | 9        | 16  | 13          |      |
|               | 医療福祉学科        | —         |                       |             | 23       | 30  | 13          |      |

|  |          |   |  |   |   |    |    |
|--|----------|---|--|---|---|----|----|
| 健康スポーツ学部   | 健康スポーツ学科 | — |  | 6 | 8 | 14 | 13 |
| (備考)<br>① 医療技術学科、リハビリテーション学科、医療福祉学科の専門科目は、各専攻合計の単位数とする。<br>② 新設の学部・学科については、1年次のみのため、確定しているもののみを記載。 |          |   |  |   |   |    |    |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

一覧ではなく、科目ごとにシラバス内に記載し公表している。  
<https://www.hirokoku-u.ac.jp/student/studies/syllabus.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

|                 |
|-----------------|
| 学部等名            |
| (困難である理由)<br>なし |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

|      |          |
|------|----------|
| 学校名  | 広島国際大学   |
| 設置者名 | 学校法人常翔学園 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

|   |
|---|
| ホームページ <a href="http://www.josho.ac.jp">http://www.josho.ac.jp</a><br>学園広報誌「FLOW」 <a href="http://www.josho.ac.jp/flow/">http://www.josho.ac.jp/flow/</a> |
|---|

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職          | 任期                        | 担当する職務内容<br>や期待する役割 |
|----------|-----------------|---------------------------|---------------------|
| 常勤       | 株式会社 特別顧問       | 2018年7月20日～<br>2020年7月19日 | 理事長                 |
| 非常勤      | 法律事務所所長         | 2018年7月20日～<br>2020年7月19日 | 労務担当                |
| 非常勤      | 一般社団法人理事長       | 2018年7月20日～<br>2020年7月19日 |                     |
| 非常勤      | 株式会社代表取締役会<br>長 | 2018年7月20日～<br>2020年7月19日 |                     |
| 非常勤      | 財団法人理事長         | 2018年7月20日～<br>2020年7月19日 |                     |
| (備考)     |                 |                           |                     |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

|      |          |
|------|----------|
| 学校名  | 広島国際大学   |
| 設置者名 | 学校法人常翔学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

|  |   |
|--|---|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>   |   |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を毎年授業担当教員が作成し、第三者(学科長等)による内容確認の上、3月末日に次年度のシラバスを大学のホームページに公表している。学生へは履修ガイダンスにて周知している。</p> |   |
| 授業計画書の公表方法   | <a href="http://www.hirokoku-u.ac.jp/student/studies/syllabus.html">http://www.hirokoku-u.ac.jp/student/studies/syllabus.html</a> |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>  |   |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における到達目標やその目標を達成するための授業の内容、計画等を明示したうえで、客観的な成績評価基準を提示し、これに基づき厳格な成績評価を行っている。成績評価方法として、GPA制度を導入している。</p> |   |

|  |   |
|--|---|
| <p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価において、GPAによる客観的な指標を設定し、年度初めに学生に配付する履修申請要領に掲載するとともに、ホームページ上にも同内容を掲載している。学生・保護者が客観的に成績を確認できるよう期ごとにGPAの分布表を作成し、ホームページに掲載している。また、低年次でGPAの数値が低い学生については、各学科にてアカデミックアドバイザーによる面談を行い、修学状況、意欲等の面談を行い、指導している。</p> <p>算出方法は次のとおり。</p> $\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{成績Sの修得単位数}) + (3 \times \text{成績Aの修得単位数}) + (2 \times \text{成績Bの修得単位数}) + (1 \times \text{成績Cの修得単位数}) + (0 \times \text{成績Dの修得単位数}) + (0 \times \text{成績Eの修得単位数})}{\text{履修登録科目の総単位数(成績が「*」の科目の単位数も含む)}}$ <p>ただし、GPAの対象としない授業科目はつぎのとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業要件に含まれない科目</li> <li>・「認」、「G」、「F」で表示された科目</li> <li>・その他、学部によって定める科目</li> </ul> <p>※再履修した場合は、最新の成績評価のみ計算対象となる。</p> |   |
| <p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>  | <p>履修申請要領 (大学ホームページ内)<br/>         [保健医療学部、総合リハビリテーション学部、健康科学部 (医療栄養学科のぞく)、健康スポーツ学部] (4～5ページ)<br/> <a href="http://www.hirokoku-u.ac.jp/assets/files/student/studies/pdf/2020rishushinsei_youkou_higashi.pdf">http://www.hirokoku-u.ac.jp/assets/files/student/studies/pdf/2020rishushinsei_youkou_higashi.pdf</a><br/>         [看護学部、薬学部、健康科学部 (医療栄養学科)] (3～4ページ)<br/> <a href="http://www.hirokoku-u.ac.jp/assets/files/student/studies/pdf/2020rishushinsei_youkou_kure.pdf">http://www.hirokoku-u.ac.jp/assets/files/student/studies/pdf/2020rishushinsei_youkou_kure.pdf</a><br/>         GPAの分布表<br/> <a href="http://www.hirokoku-u.ac.jp/student/studies/seiseki.html">http://www.hirokoku-u.ac.jp/student/studies/seiseki.html</a></p> |
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>   |   |

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

すべての学部において学生に学位を授与するに当たり、学生が卒業までに修得すべき資質や能力を含めた学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定めており、ホームページにて公表している。具体的な認定については、教授会にて修得単位数を基に卒業判定を行っている。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

[http://www.hirokoku-  
u.ac.jp/profile/outline/index.html](http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/outline/index.html)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

|      |          |
|------|----------|
| 学校名  | 広島国際大学   |
| 設置者名 | 学校法人常翔学園 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等        | 公表方法  |
|--------------|---|
| 貸借対照表        | 学園ホームページ<br><a href="http://www.josho.ac.jp/introduction/outline.html">http://www.josho.ac.jp/introduction/outline.html</a> |
| 収支計算書又は損益計算書 | 〃   |
| 財産目録         | 〃   |
| 事業報告書        | 〃   |
| 監事による監査報告(書) | 〃   |

2. 事業計画 (任意記載事項)

|                                  |
|----------------------------------|
| 単年度計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____ ) |
| 公表方法 :                           |
| 中長期計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____ ) |
| 公表方法 :                           |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

|  |
|--|
| 公表方法 : <a href="http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/valuation/jikoten.html">http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/valuation/jikoten.html</a> |
|--|

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

|  |
|--|
| 公表方法 : <a href="http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/valuation/jihee.html">http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/valuation/jihee.html</a> |
|--|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

|  |
|--|
| 学部等名 保健医療学部 診療放射線学科  |
| 教育研究上の目的 (公表方法: ホームページ)  |
| (概要) 急速に高度化、専門化する放射線診療に対応でき、さらに新しい医用技術の開発にも参画できる信頼される医療人としての診療放射線技師を育成する。  |
| 卒業の認定に関する方針 (公表方法: ホームページ)   |
| (概要)<br>1) 診療放射線技師としての強い使命感と責任感を持つとともに、豊かな人間性と高い倫理観を身につける。<br>2) 専門的な医療技術に対応できる知識と技能を身につけ、医療現場で活躍できる。<br>3) 医療現場で必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、「いのちのそばに、ひととともに」を共有するチーム医療に貢献できる。<br>4) 医療人として地域社会のさまざまな問題について、専門的な立場から適切な情報提供と対応ができる。<br>5) スペシャリストとして常に高度専門技術の向上に努め、研修・研鑽を行う意欲を持つ。   |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページ)   |
| (概要)<br>診療放射線学科の教育研究上の目的は急速に高度化・専門化する放射線診療に対応でき、さらに、人間性を尊重し、心豊かな医療人としてチーム医療で活躍できる診療放射線技師を育成することである。この目的を達成するために次のようにカリキュラムを編成する。<br>1) 病む人の気持ちを理解し、様々な職種の人たちとチームとして診療に関わるための意識を身につける。そのために必要なコミュニケーションスキルや様々な立場の人たちとの接し方も、日々の学修、アクティブラーニング、実習・演習などを通して身につける。<br>2) チーム医療の現場に必要な医学的知識、放射線診療に必要な知識とスキルを身につける。さらに、日々の学修の中で自ら課題を見つけ出し、他の人と協働してその解決を図る習慣を身につける。<br>3) 日々進歩する医療を提供するために、最新の医療技術を確実にキャッチアップするための知識・スキルを身につける。 |
| 入学者の受入れに関する方針 (公表方法: ホームページ、入試ガイド、入学試験要項)  |
| (概要)<br>診療放射線領域の高度な診断・治療技術を修得し、思いやりと協調性をもってチーム医療の現場で活躍しようとする人材。<br>＜入学前に修得が望まれる知識・力＞<br>・基礎的な数的処理能力および自然科学の知識 (数学、理科)。<br>・日本語・外国語での文章読解力と表現力を身につけ、自分の考えを論理的に他者に伝える力。  |

|  |
|--|
| 学部等名 保健医療学部 医療技術学科 臨床工学専攻  |
| 教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）  |
| （概要）臨床工学・臨床検査学の広い領域での知識・技術をもとに、日々進歩し続ける医療機器や医療技術の変化に対応できる能力や医療チームの牽引役になることができる能力を持つ人材を育成する。  |
| 卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）   |
| （概要）<br>1) 臨床工学技士としての高い志を持ち、医療を担うにふさわしい倫理観や人間性を備え、患者さんの気持ちに寄り添った医療を提供することができる。<br>2) 医学と工学にわたる基礎分野、ならびに専門となる臨床工学の知識・技術を学修し、今後の医療技術の進展に対し専門性の更なる向上に主体的に取り組むことができる。<br>3) 高い協調性を備え、医療チームの協働・連携者として、患者さんの問題解決に参画するとともに患者の利益を追求することができる。<br>4) 国際的視点と学術的視点を合わせ持ち、臨床工学分野の新たな価値や技術の創意・工夫により、より良い医療の提供に挑戦し続けることができる。  |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）   |
| （概要）<br>教育研究上の目的は、医療を担える人間性を備え人の役に立とうとする高い志を持ち、日々進歩する臨床工学を学び研究し続けながら医療機器の技術と管理のスペシャリストである臨床工学技士を養成することである。この目的を達成するために必要なカリキュラムを編成する。<br>1) 初年次の「専門職連携基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、医療に携わる上での人間性や職務意識など医療職共通の認識を深め、チームとして協働・連携するためのコミュニケーション能力を育む。<br>2) 初年次から2年次前期の専門基礎科目では、臨床工学技士に必要な基礎医学と工学の基礎学力を育み、「早期体験演習Ⅰ・Ⅱ」では、目標とする臨床工学技士について自分で説明できるようになることを目標にグループ学修や病院見学を実施し、早期から修学意欲を高めることで自己の職業観を養う。<br>3) 2年次後期から3年次では、「生体計測技術学」、「医用治療機器学」、「呼吸療法技術学」、「血液浄化技術学」、「体外循環技術学」、「機器安全管理学」等の専門科目について学内実習と並行して学修し、臨床工学技士としての専門的知識と技術の基礎を固める。<br>4) これらの専門基礎・専門科目の学修は、3年次前期での「第2種ME技術実力検定試験の合格」、それ以降では3年次後期から4年次前期の臨床現場で実践的に学ぶ「臨床工学実習の充実」を目標として、それぞれ最大限の成果が上がるように「臨床工学演習Ⅰ・Ⅱ」を配置して学修の充実を図る。<br>5) 卒業研究では、これまでの学修の延長線上にある未知や問題の解決を図ることを目的に調査や実験を行い、得られたデータをもとにその成果を口頭や論文として報告することにより論理的な展開能力を身につける。3年次より卒業研究を導入し、4年次後期では卒業論文を完成させる。<br>6) 2年次から4年次の「キャリア支援Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、就職活動に必要なコミュニケーション力やマナーなどのスキルを修得し、社会人としての能力を身につける。 |

|   |
|---|
| <p>7) 2年次から3年次後期の「臨床工学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、資格試験や国家試験の合格に向けて早期から学修し、4年次後期の「ME演習」、「臨床工学演習Ⅳ」で4年間の学修の統合を図る。</p>   |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）</p> <p>（概要）<br/>         医学と工学の接点である医用工学を広く学ぶと共に、臨床工学技士に必要な技術を修得し、協調性をもって医療に貢献しようとする人材。<br/>         &lt;入学前に修得が望まれる知識・力&gt;<br/>         ・臨床工学技士に興味を持ち、その専門性修得への意欲。<br/>         ・ひとの健康を願い、またひととのコミュニケーション力向上に取り組む姿勢。<br/>         ・基礎的な数的処理能力および自然科学の知識（数学、理科）。<br/>         ・日本語・外国語での文章読解力と表現力を身につけ、自分の考えを論理的に他者に伝える力。</p>   |
| <p>学部等名 保健医療学部 医療技術学科 臨床検査学専攻</p>   |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）臨床工学・臨床検査学の広い領域での知識・技術をもとに、日々進歩し続ける医療機器や医療技術の変化に対応できる能力や医療チームの牽引役になることができる能力を持つ人材を育成する。</p>   |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）<br/>         1) 臨床検査技師としての強い使命感と責任感を持つとともに、他人を思いやる心と医療人としての高い倫理観を身につける。<br/>         2) 専門的な医療技術に対応できる知識と技能を身につけ、医療現場で活躍できる。<br/>         3) 医療現場で必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、「いのちのそばに、ひととともに」を共有するチーム医療に貢献できる。<br/>         4) 専門知識とともに幅広い教養を身につけ、俯瞰的な立場から適切な情報提供と対応ができる。<br/>         5) 臨床検査のスペシャリストとして常に高度専門技術の向上に努め、研修・研鑽を行う意欲を持つ。</p>  |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）<br/>         教育研究上の目的は、急速に高度化・専門化する臨床検査領域に対応でき、さらに、人間性を尊重し、心豊かな医療人としてチーム医療で活躍できる臨床検査技師を育成することである。この目的を達成するために以下のカリキュラムを編成する。<br/>         1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、臨床検査技師としての倫理観および職業観を養い、高いモチベーションで学び続ける姿勢およびチーム医療に必要な協調性とコミュニケーション力を育む。オプション科目では個々の豊かな人間性と多様な教養を身につけ、広い視野をもった社会人となるよう取り組む。また、少人数教育であるチュートリアルでは、様々なテーマにつき問題提起、調査、討論などを行ない、自ら学ぶ姿勢を育むとともに、親密な人間関係を構築する。<br/>         2) 初年次から2年次にかけて学ぶ専門基礎科目を通じて、臨床検査技師に必要な人体構造学、生化学などの基礎医学を学び、2年次以降の専門科目では、病理組織</p> |

細胞学、臨床血液学、臨床化学、臨床微生物学、臨床生理学などの専門知識と検査技術を修得する。さらに、4年次の臨地実習を通して実践能力、命の尊厳を基とした医療人としての人間性を育む。

3) 4年間の学修の集大成としての卒業研究では、専門職業人として必要な、問題解決力、情報発信力をつけることで、卒業後も学び続ける姿勢を培う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）

（概要）

臨床検査技師として必要な検査技術、診断能力を修得すると共に、医療現場で求められる協調性とコミュニケーション力を培い、医療分野で活躍する専門職をめざす人材。

<入学前に修得が望まれる知識・力>

- ・臨床検査技師に興味を持ち、その専門性修得への意欲。
- ・基礎的な自然科学の知識（生物、化学）。
- ・物理、化学に適用できる基礎的な数学の力。
- ・日本語・外国語での文章読解力と表現力を身につけ、自分の考えを論理的に他者に伝える力。

学部等名 保健医療学部 救急救命学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

（概要）日々進歩し続ける病院前救護の変化に対応できる救急救命の専門知識および実践力を身につけ、病院前救護と地域社会に貢献できる質の高い救急救命士を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

（概要）

- 1) 救急救命士としての強い使命感と責任感を持つとともに、豊かな人間性と高い倫理観を身につける。
- 2) 救急救命士として必要な専門的な医療技術に対応できる知識と技能を身につけ、医療現場で活躍できる。
- 3) 救急医療現場で必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、「いのちのそばに、ひととともに」を共有するチーム医療に貢献できる。
- 4) 地域における救急医療でのさまざまな問題について、専門的な立場から適切な情報提供と対応ができる。
- 5) 病院前救護のスペシャリストとして常に高度専門技術の向上に努め、研修・研鑽を行う意欲を持つ。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

（概要）

教育研究上の目的は急速に高度化・専門化する救急の現場に対応でき、さらに、人間性を尊重し、心豊かな医療人として規律をもって活躍できる救急救命士を育成することである。この目的を達成するために以下のカリキュラムを編成する。

1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、救急救命士としての倫理観および職業観を養い、高いモチベーションで学び続ける姿勢およびチーム医療に必要な協働能力を育む。またスタンダード科目とオプション科目では、個々の豊かな人間性と自主的に課題発見、探求する姿勢を育む。

2) 初年次から2年次にかけて学ぶ専門基礎科目を通じて、救急救命士に必要な人体構造や生理、病理など医学分野の基礎学力を育み、さらに2年次以降の専門科目では、救急現場活動や災害システム、救急症候・病態生理、外傷救急の各分野につ

|  |
|--|
| <p>いて学ぶ。</p> <p>3) 全学年に配当されている実習科目を通じて、救急救命士に必要な技術の修得を目指す。初年次から2年次に行う救急救命処置実習では、救急救命士として必要な観察・処置技術の基礎を、3年次に行う救急救命高度実習では、救急救命士が医師の指示を得て行う医療行為(特定行為)を修得し、4年次の救急救命総合実習では救急現場活動で必要な実践能力を修得する。さらに、学外実習として救急システム実習Ⅰ・Ⅱ(消防署見学、防災訓練参加)、Ⅲ・Ⅳ(救急車同乗実習、病院実習)を通じて救急災害医療に携わる医療関連従事者の役割について学ぶ。</p> <p>4) 4年間の学修の集大成としての卒業研究では、専門職業人として必要な問題解決力や情報発信力を、さらに就職試験(公務員試験)、国家試験合格に向けた知識・能力を身につける。</p>                                  |
| <p>入学者の受入れに関する方針(公表方法:ホームページ、入試ガイド、入学試験要項)</p> <p>(概要)</p> <p>救急救命士に求められる高度で専門的な知識・技術に加え、規律を重視し、冷静かつ的確に行動することをめざす人材</p> <p>&lt;入学前に修得が望まれる知識・力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の命を守り、社会に貢献したいという信念を持ち続けることができる者。</li> <li>・救急救命士として必要な知識を学ぶ上で必要となる生物などの自然科学の基礎知識。</li> <li>・時間厳守、挨拶などの規律を持ち、何事にも誠実に対応できる能力。</li> </ul>  |
| <p>学部等名 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻</p> <p>教育研究上の目的(公表方法:ホームページ)</p> <p>(概要) 多様なリハビリテーション技術を総合的に提供でき、すべての人々の健康と生活の向上を目的として予防から治療までの幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力と豊かな人間性を養った専門職業人(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士および義肢装具士)として社会に貢献できる人材を育成する。</p>   |
| <p>卒業の認定に関する方針(公表方法:ホームページ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 豊かな人間性と倫理観を備え、あらゆる人々の心と体の回復を支えることを喜びとすることができる。</li> <li>2) 医療の進歩に対応できる多様なリハビリテーション技術を総合的に提供できる。</li> <li>3) 基礎的な医学の知識を身につけ理学療法士としての診断と治療の技術を修得している。</li> <li>4) 理学療法に関する知識や技術を社会において応用・発展させる能力を身につけている。</li> </ol> <p>①社会の様々なニーズに柔軟に対応できる。</p> <p>②医療サービス対象者のことを第一に考え、医療チームの一員として他の専門職と協働できる。</p> <p>5) 地域の健康、医療、福祉に貢献できる能力を備えている。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:ホームページ)</p> <p>(概要)</p> <p>教育研究上の目的は今後の社会変化や医療技術の進歩にも確実に対応できるような人材を育成することである。具体的には多様なリハビリテーション技術を、幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力を用いて総合的に提供でき、さらに、対象となる人々への深い人間愛や関係職種との協調性など、豊かな人間性を持つ専門職業人を育てる。この目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成する。</p>   |

|   |
|---|
| <p>1) 基礎学力の充実<br/> 一般教養も含めたオプション科目、基礎医学や関連領域に重点を置くことにより、専門教育科目の修得のための基礎を築く。またこれらの基礎学力を養うことで自己学修の能力を拡大し、能動的学修習慣を身につける。</p> <p>2) 専門教育科目の充実<br/> 確固とした基礎学力を基盤に、柔軟な応用力をもった専門職能力を付ける。理学療法士としての誇りや喜びを感じられる教育が受けられる。</p> <p>3) 社会に対応できる能力の養成<br/> コミュニケーション能力は医療・福祉において患者や利用者の状況把握や治療・福祉用具の適合のためにも必須であることはもとより、的確なチームアプローチを行うためにおいても重要である。チュートリアル教育においてグループワークを推奨することによりこれらの能力を向上させる。また演習、実習等でグループ学修を多く取り入れ、コミュニケーション能力を高めるとともに能動的な学修習慣を身につける。礼儀や挨拶などの躰けも各専門科目や実習科目の中で十分に取り入れられる。また問題発見能力や解決能力の育成を重視する。これらの能力は主に卒業研究や学外臨床・臨地実習で培われる。</p> <p>4) 協働できる理学療法士の育成を意識した編成<br/> リハビリテーション医療は医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケースワーカー、ケアマネージャー等と協働して行うことにより、はじめて適切なサービスが提供できる。そのため他職種と積極的に連携できる理学療法士となれるようにカリキュラムを編成している。学部・学科を超えて他職種と連携し医療・福祉を考える教育として、IPE(専門職連携教育)を導入している。</p> <p>5) 社会をリードする人材の育成<br/> 理学療法士の活躍の場は医療現場だけでなく施設・在宅または広く地域を対象とした保健・福祉活動、また、各種スポーツに対するコンディショニングなどと広がっている。これらの理学療法士に対するニーズに対応できるよう専門領域のみならず広く社会に視野を向け、創造できる人材の育成も目指す。そのために、地域との交流をはじめ、学部・学科をまたいだ研究室の交流などにより、広く関連分野の進歩に貢献できる卒業研究の発展を促す。さらに海外研修などを通じて海外との交流を推進する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項)</p>   |
| <p>(概要)<br/> ひとの心と体の働きに興味を持ち、運動などを通じて、あらゆる人々のからだの機能回復のサポートをすることに喜びを感じ、かつ探究心を持ち続け、理学療法学の領域での発展に貢献したい人材。</p> <p>&lt;入学前に修得が望まれる知識・力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の読解力と表現力、英語の基礎的な読解力。</li> <li>・生命現象を理解するための基本的な知識。</li> <li>・文章を理解したり、人にわかりやすく説明する力。</li> </ul>  |
| <p>学部等名 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻</p>   |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ)</p>   |
| <p>(概要) 多様なリハビリテーション技術を総合的に提供でき、すべての人々の健康と生活の向上を目的として予防から治療までの幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力と豊かな人間性を養った専門職業人(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士および義肢装具士)として社会に貢献できる人材を育成する。</p>   |

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

- 1) 豊かな人間性と倫理観を備え、あらゆる人々の心と体の回復を支えることを喜びとすることができる。
  - 2) 医療の進歩に対応できる多様なリハビリテーション技術を総合的に提供できる。
  - 3) 基礎的な医学の知識を身につけ作業療法士としての診断と治療の技術を修得している。
  - 4) 作業療法に関する知識や技術を社会において応用・発展させる能力を身につけている。
- ①社会の様々なニーズに柔軟に対応できる。  
②医療サービス対象者のことを第一に考え、医療チームの一員として他の専門職と協働できる。
- 5) 地域の健康、医療、福祉に貢献できる能力を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

（概要）

教育研究上の目的は今後の社会変化や医療技術の進歩にも確実に対応できるような人材を育成することである。具体的には多様なリハビリテーション技術を、幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力を用いて総合的に提供でき、さらに、対象となる人々への深い人間愛や関係職種との協調性など、豊かな人間性を持つ専門職業人を育てる。この目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成する。

1) 基礎学力の充実

一般教養も含めたオプション科目、基礎医学や関連領域に重点を置くことにより、専門教育科目の修得のための基礎を築く。またこれらの基礎学力を養うことで自己学修の能力を拡大させ、能動的学修習慣を身につける。

2) 専門教育科目の充実

確固とした基礎学力を基盤に、柔軟な応用力をもった専門職能力を付ける。作業療法士としての誇りや喜びを感じられる教育が受けられる。

3) 社会に対応できる能力の養成

コミュニケーション能力は医療・福祉において患者や利用者の状況把握や治療・福祉用具の適合のためにも必須であることはもとより、的確なチームアプローチを行うためにおいても重要である。チュートリアル教育においてグループワークを推奨することによりこれらの能力を向上させる。また演習、実習等でグループ学修を多く取り入れ、コミュニケーション能力を高めるとともに能動的な学修習慣を身につける。礼儀や挨拶などの躰けも各専門科目や実習科目の中で十分に取られる。また問題発見能力や解決能力の育成を重視する。これらの能力は主に卒業研究や学外臨床・臨地実習で培われる。

4) 協働できる作業療法士の育成を意識した編成

リハビリテーション医療は医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケースワーカー、ケアマネージャー等と協働して行うことにより、はじめて適切なサービスが提供できる。そのため他職種と積極的に連携できる作業療法士となれるようにカリキュラムを編成している。学部・学科を超えて他職種と連携し医療・福祉を考える教育として、IPE(専門職連携教育)を導入している。

5) 社会をリードする人材の育成

作業療法士の活躍の場は、保健福祉分野から行政、学校教育など広く多様であり、支援対象も身体障害のみならず、精神障害や発達障害、高次脳機能障害や認知症などと広範囲である。これらの作業療法士に対するニーズに対応できるよう、専門領域のみならず広く社会に視野を向け、創造できる人材の育成も目指す。そのため

|   |
|---|
| <p>に、地域との交流をはじめ、学部・学科をまたいだ研究室の交流などにより、広く関連分野の進歩に貢献できる卒業研究の発展を促す。さらに海外研修などを通じて海外との交流を推進する。</p>   |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）</p> <p>（概要）</p> <p>ひとの心と体の両面に関心を持ち、作業を通じてひとを元気にしたいという情熱を持った、老若男女を問わず多くの人々に関わる事が好きな人材。</p> <p>＜入学前に修得が望まれる知識・力＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとという存在を様々な角度から理解するために必要な言語的な読解力と表現力。</li> <li>・生物や生命現象に対する知識。</li> </ul>   |
| <p>学部等名 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 言語聴覚療法専攻</p>  |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）多様なリハビリテーション技術を総合的に提供でき、すべての人々の健康と生活の向上を目的として予防から治療までの幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力と豊かな人間性を養った専門職業人(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士および義肢装具士)として社会に貢献できる人材を育成する。</p>   |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 豊かな人間性と倫理観を備え、あらゆる人々の心と体の回復を支えることを喜びとすることができる。</li> <li>2) 医療の進歩に対応できる多様なリハビリテーション技術を総合的に提供できる。</li> <li>3) 基礎的な医学の知識を身につけ言語聴覚士としての診断と治療の技術を修得している。</li> <li>4) 言語聴覚療法に関する知識や技術を社会において応用・発展させる能力を身につけている。</li> </ol> <p>①社会の様々なニーズに柔軟に対応できる。</p> <p>②医療サービス対象者のことを第一に考え、医療チームの一員として他の専門職と協働できる。</p> <p>5) 地域の健康、医療、福祉に貢献できる能力を備えている。</p>  |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）</p> <p>教育研究上の目的は今後の社会変化や医療技術の進歩にも確実に対応できるような人材を育成することである。具体的には多様なリハビリテーション技術を、幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力を用いて総合的に提供でき、さらに、対象となる人々への深い人間愛や関係職種との協調性など、豊かな人間性を持つ専門職業人を育てる。この目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基礎学力の充実</li> </ol> <p>一般教養も含めたオプション科目、基礎医学や関連領域に重点を置くことにより、専門教育科目の修得のための基礎を築く。また、これらの基礎学力を養うことで自己学修の能力を拡大させ、能動的学修習慣を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 専門教育科目の充実</li> </ol> <p>確固とした基礎学力を基盤に、柔軟な応用力をもった専門職能力を付ける。言語聴</p> |

|  |
|--|
| <p>覚士としての誇りや喜びを感じられる教育が受けられる。</p> <p>3) 社会に対応できる能力の養成<br/> コミュニケーション能力は医療福祉において患者や利用者の状況把握や治療・指導のために必須であることはもとより、的確なチームアプローチを行うためにも重要である。チュートリアル教育においてグループワークを推奨することによりこれらの能力を向上させる。また、演習、実習等でグループ学修を多く取り入れ、コミュニケーション能力を高めるとともに能動的学修習慣を身につける。礼儀や挨拶などの躰けも各専門科目の中で十分に取り入れる。また、問題発見能力や解決能力の育成を重視する。これらの能力は主に卒業研究や学外臨床実習・臨地実習で培われる。</p> <p>4) 協働できる言語聴覚士の育成を意識した養成<br/> リハビリテーション医療は医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケースワーカー、ケアマネージャー等の関連専門職と協働して行うことにより、はじめて適切なサービスを提供できる。そのため他職種と積極的に連携できる言語聴覚士となれるようにカリキュラムを編成している。学部・学科を超えて他職種と連携し医療・福祉を考える教育として、IPE（専門職連携教育）を導入している。</p> <p>5) 社会をリードする人材の育成<br/> 言語聴覚士の活躍の場は、保健医療衛生福祉分野から行政、保育・教育など広く多様であり、支援対象も言語聴覚障害のみならず、摂食・嚥下障害も含んだ広い範囲である。これらの言語聴覚士に対する多様なニーズに対応できるよう専門領域のみならず広く地域社会に視野を向け、未来を創造できる人材の育成を目指す。そのために、地域との交流をはじめ、学部・学科をまたいだ研究室の交流などにより、広く関連分野の進歩に貢献できる卒業研究の発展を促す。さらに海外研修などを通じて海外との交流を推進する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）</p> <p>（概要）<br/> コミュニケーションや飲み込みの働きに関心を持ち、その障がいのある人を理解し支援することに情熱を有し、言語聴覚障害学の領域での活躍をめざす人材。<br/> &lt;入学前に修得が望まれる知識・力&gt;<br/> ・日本語の読解力と表現力、英語の基礎的な読解力。<br/> ・高い協調性。</p>  |
| <p>学部等名 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 義肢装具学専攻</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）多様なリハビリテーション技術を総合的に提供でき、すべての人々の健康と生活の向上を目的として予防から治療までの幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力と豊かな人間性を養った専門職業人（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士および義肢装具士）として社会に貢献できる人材を育成する。</p>  |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>1) 命の尊さを大切にするための「医の心」と「ものづくりの技術」を身につけ、利用者のニーズに的確に応える能力を修得している。<br/> 2) 基礎的な医学と工学の知識を身につけリハビリテーション支援における課題を科学的、論理的に解決する技術を修得している。<br/> 3) リハビリテーション支援に関係するものづくりの技術を中心に、関係する他の専門職者と協力しながら問題を解決できる。</p>  |

- 4) 地域の医療、福祉に貢献できる能力を備えている。
- 5) 生涯にわたり、健康寿命の延伸のために、その時代の社会の必要性に応じて、学んだ知識や技術を応用し発展させる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

（概要）

教育研究上の目的は、より長い期間、心豊かに人生を過ごせるよう、すなわち、健康寿命を延伸できるよう、高齢者や障害のある方の生活自立や生活の質の向上を実現するリハビリテーション支援者として、義肢装具や福祉用具、福祉機器等の幅広い知識を有する豊かな人間味あふれる人材を育成することである。この目的を達成するために、以下のように学科のカリキュラムを編成する。

1) リハビリテーション支援者としての豊かな人間性を育む基礎づくり

スタンダード科目およびオプション科目では、その基礎となる豊かな人間性や社会性、あるいは一人一人が率先して学修に取り組む姿勢、さらに、リハビリテーション支援者としてチーム医療に必要な他の専門職技術者と協働する姿勢や能力を修得する。

2) “医の心”と“ものづくりの技術”を培う福祉のものづくり研究

専門基礎分野において、人間の身体運動メカニズム、疾病について学び、“医の心”、また、社会制度やリハビリテーション理念を段階を踏んで学修する。さらに、ものづくりの基礎となる機械計測や運動機能計測、人間工学、バイオメカニクス学を学修し、機器や環境を改善するための、実験、測定、分析の重要性を実験・実習で体験する。

3) 課題解決能力の育成

義肢装具士の役割を理解し、義肢装具の種類と適合判定、制作過程で使用する基本材料や工作機器の特徴や使用方法を学ぶ。さらに義肢装具の種類に合わせて設定した科目により、臨床や研究上での疑問を科学的、論理的に理解し、問題解決する“福祉のものづくり研究”に取り組むための能力を修得する。

4) 少人数教育と現場での活躍支援

現場での活躍を見据え、1年次～4年次すべてに臨床経験を積むための実習（見学実習、臨床実習）を設け、一人一人が学内での講義、演習、実習で得た知識、技能等を臨床の場で生かし、義肢装具の実践的な技術を修得する。

さらに卒業研究では、4年間の集大成として、今までに修得した理論、専門知識をもとに調査・考察を行い、問題を見つけ、分析し研究論文を作成する。

5) 専門分野にとどまらない幅広いニーズに対応

「義肢装具」に関する知識だけでなく、「福祉用具、福祉機器」「人間工学」「ロボット」等の幅広い知識も学修する医工連携カリキュラムにより、「義肢装具士」の国家資格を有するリハビリテーション支援者として、義肢装具の製作販売会社のみならず、県内の高齢者施設、障害者支援施設、福祉用具製造販売会社、ものづくり企業等で活躍することが可能である。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）

|   |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>“医の心”と“ものづくりの技術”に興味があり、義肢装具、福祉機器、福祉用具の設計・製作を通して、健康寿命の延伸への貢献と、障がいのあるひとや高齢者の支援を行いたい人材。</p> <p>＜入学前に修得が望まれる知識・力＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語的な読解力と表現力。</li> <li>・ものづくりや、ものの機構に関する興味。</li> <li>・力学、数学に関する興味や基礎知識。</li> </ul>  |
| <p>学部等名 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科</p>   |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>(概要) あらゆる人々が、各ライフステージ（各年齢期）において健康で豊かな生活を送ることができるよう、健康・運動・スポーツに関する知識や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する。</p>  |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康・運動・スポーツの専門家としての使命感と責任感を持ち、ひとを思いやる豊かな人間性を身につけている。</li> <li>2) 健康・運動・スポーツに関する専門的知識や技能をもって、あらゆる人々の各ライフステージ（各年齢期）における健康で豊かな生活に貢献できる。</li> <li>3) 専門的知識や技能を発揮する場において、他者と協力し様々な問題をチームとして解決することができる。</li> <li>4) 地域社会において健康・運動・スポーツに関するさまざまな情報を専門的立場から提供できる。</li> <li>5) 研修や講習等を通じて、健康・運動・スポーツに関する専門的知識や技術の向上に努めることができる。</li> </ol>   |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>(概要)</p> <p>教育研究上の目的は、社会の状況に応じた健康・運動・スポーツ分野における専門的知識や技能を提供し、豊かな人間性と協調性を有し、関連する専門職と連携・協力して問題を解決できる力を高めることのできる人材を育成することである。この目的を達成するために、以下のカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基礎学修力の充実 <p>大学での学修の仕方や大学生として必要な基礎的学修能力を1年次より開講されるスタンダード科目およびオプション科目を中心に身につける。また、友人達とのコミュニケーションを通して大学生としての生活態度や心構えを養っていく。</p> </li> <li>2) 専門基礎・専門科目の充実 <p>保健体育教員、健康運動指導士など多岐にわたる免許・資格取得のための専門基礎科目と専門科目の学修を通して専門的能力の修得を目指す。また、専門職連携教育(IPE)関連科目を学修することによって専門分野に幅広く貢献する能力を身につけることができる。</p> </li> <li>3) 演習・実習科目の充実 <p>健康・運動・スポーツを専門とする職業人においては、専門的知識や技術の修得のみならずその知識や技術を実際の行為として提供していくことが重要になってくる。そのためにグループによる演習、実習等を通じて現場に役立つ実践力、問題解決能力を身につけていく。また、免許・資格試験に向けた学力を培っていく。</p> </li> </ol> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）</p>  |

|   |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>健康・体育・スポーツに関する専門的な知識と技能の修得を目指し、社会の様々な環境において協調性と意欲を持って人と接することのできる人材。</p> <p>&lt;入学前に修得が望まれる知識・力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康・スポーツについて興味・関心を持ち、意欲を持って取り組む姿勢。</li> <li>・積極的に他者と協力し、物事に関わる力。</li> <li>・基本的な読解力と表現力。</li> </ul>   |
| <p>学部等名 健康科学部 心理学科</p>  |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ)</p>   |
| <p>(概要) ストレスの多い社会に対し、さまざまな心理学とコミュニケーション技術をもとに、自己や他者のこころに関心を持つ人材、さらに肯定的自己理解と他者への共感的理解を持ちながら、温かい人間関係を構築し、社会の中で生じる課題を創造的に解決できる人材を育成する。</p>   |
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ)</p>  |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 総体としての人間、心の多様性と普遍性、人間と環境との相互作用を客観的に理解し、人間に関する専門職業人として社会貢献することができる。</li> <li>2) 人間を複眼的に見る力、批判的実証的態度、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力など実社会で役立つ汎用技術を修得している。</li> </ol>  |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ)</p>  |
| <p>(概要)</p> <p>日々変動するストレスの多い社会の中で、自己や他者のこころに積極的に関心を持ち、肯定的自己理解を有し、他者に共感的理解を示しながら、温かい人間関係を構築することができ、さらに、個人的だけではなく、人間関係を生かしながら社会の中で生じる課題を創造的に解決していくことのできる人材を育成することが教育目標である。このような自律（自らを尊重し、セルフマネジメントができる）、共感（人を尊重し、こころを理解できる）、協働（人と社会のために、他者とともに行動できる）を旨として、心理学とコミュニケーションの幅広い専門知識と理論および技能の修得と、それを実社会における課題を解決するために活かすことのできる実践的なエキスパートを育成するために、次のようなカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心理学の専門知識・理論を学ぶ専門科目群、学内の演習・実習、学外実習を系統的に学ぶことができる。</li> <li>2) コミュニケーション学の専門知識・理論を学ぶ専門科目群、学内の演習・実習、学外実習を系統的に学ぶことができる。</li> <li>3) 専門職大学院と連携して公認心理師・臨床心理士を目指す履修モデル、医療福祉系への就職を目指す履修モデル、企業への就職を目指す履修モデルの、社会的実践の場を意識できる3つの履修モデルを学ぶことができる。</li> <li>4) 専門職種間の連携教育のための関連科目を年次を通して学ぶことができる。</li> <li>5) ディプロマポリシーの中で専門科目だけでは十分な対応できない国際的多様性や生涯学習については、幅広い教養科目であるスタンダード科目とオプション科目で学ぶことができる。</li> </ol> |
| <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項)</p>   |

|  |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>文系、理系を問わず、心理学に興味があり、積極的に学修し、学んだことを日常に活かす意欲のある人で、ひとを大切に思い、ひとの役に立ちたい人材。</p> <p>&lt;入学前に修得が望まれる知識・力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語的な読解力と表現力。</li> <li>・自分の考えを適切に相手に伝える力。</li> <li>・基礎的な自然科学の知識。</li> </ul>   |
| <p>学部等名 健康科学部 医療栄養学科</p>   |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ)</p>  |
| <p>(概要) 人々の健康の維持、病気の予防・改善のため、栄養と食の力を活用し、地域社会の健康・医療・福祉に貢献できる管理栄養士を育成する。</p>   |
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ)</p>   |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 管理栄養士としての強い使命感と責任感を持つとともに、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。</li> <li>2) 専門的な医療技術に対応できる知識と技能を身につけ、総合的な健康管理のできる管理栄養士として健康、医療、福祉、介護の現場で活躍できる。</li> <li>3) 医療現場で必要とされるコミュニケーション能力を身につけ、「いのちのそばに、ひととともに」を共有するチーム医療に貢献できる。</li> <li>4) 地域社会のさまざまな問題について、専門的な立場から食に関する適切な情報提供と対応ができる。</li> <li>5) 将来にわたって自己研鑽できる力と自らの考えを発信できる力を身につけ、食生活及び栄養状態の改善に貢献できる。</li> </ol>  |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ)</p>   |
| <p>(概要)</p> <p>『食と栄養』を科学的に学び、『食と栄養の力』で健康の維持・増進及び病気の予防・改善を図る管理栄養士の養成を目指すとともに、既存学部における健康・医療・福祉分野での教育・実習の実績を活かしながら、他学部・他学科あるいは地域社会と連携したカリキュラムを展開することで、医療人として高度な専門的知識や技能のみならず、高い倫理観を備えた豊かな人間性を持った「管理栄養士」の養成を実現する。この目的を達成するために以下のカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療人育成に向けたスタンダード科目とオプション科目および専門教育への導入を目的とする基礎教育 <p>スタンダード科目とオプション科目では個々の豊かな人間性を育み、さらに入学早期から専門職としての管理栄養士に対する意識付け教育を実践する。この分野では「早期体験学習」で実際の現場を体験しながら管理栄養士としての心構えを学び、さらに、早期から多職種との専門職連携教育 (IPE) をカリキュラムに配置することでコミュニケーション能力を養いながら管理栄養士の役割と他の職種を理解する力を育む。</p> </li> <li>2) 管理栄養士としての知識と技能を育成する専門教育 <p>専門的な知識の十分な理解を図るため、専門基礎分野に「生化学Ⅰ・Ⅱ」「生化学実験Ⅰ・Ⅱ」と有機化学の理解を深めるとともに「病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「病態生理学実習」を配置し、病態に対する理解を深める工夫をしている。さらに、高齢化、疾病の複雑化・重症化が進行する中、薬の知識や介護・福祉の知識を取り入れた管理栄養士教育が必要となっているところから、専門応用分野では、「栄養薬学」や</p> </li> </ol> |

|   |
|---|
| <p>「臨床栄養学各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ」において医療、福祉、介護の現場に対応した教育内容とすることで、在宅まで含めた社会的ニーズに対応できる質の高い管理栄養士教育をめざす。</p>   |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）</p> <p>（概要）</p> <p>「食と栄養」に興味を持ち、「食と栄養の力」で人々の健康維持・増進、病気の予防、改善を図り、健康、医療、福祉、介護の幅広い分野で活躍したい人。特に、管理栄養士に対する興味と、その専門的な知識の修得に意欲がある人材。</p> <p>＜入学前に修得が望まれる知識・力＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとの健康を願い、またひととのコミュニケーション力向上に取り組む姿勢。</li> <li>・文章を的確に理解し、論理的な構成に基づいて文章の作成ができる力。</li> <li>・基礎的な数的処理能力および自然科学の知識。</li> </ul>   |
| <p>学部等名 健康科学部 医療経営学科</p>  |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）健康・医療分野に深く関わる経営学、経済学、法学、医学、情報学等の実践的な学びを通して、高い倫理観を持ちながら、効率的で質の高い健康・医療サービスの提供をもって、人々のしあわせをマネジメントできる人材を育成する。</p>   |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域の人々のしあわせに貢献できる。</li> <li>2) 医療マインドと高い倫理性を持つ。</li> <li>3) 医療専門職や地域と連携し、医療機関を管理運営、サポートできる。</li> <li>4) 経営学、経済学、医学、情報学の基礎を理解し、医療経営手法を修得している。</li> </ol>  |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）</p> <p>教育研究上の目的は、医療マインドと高い倫理性を持ちながら、社会的価値を高める経営手法を修得し、広い視野から医療に関わる事業組織の運営に貢献する人材を育成することである。この目的を達成するために以下のカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専門教育科目の充実</li> </ol> <p>医療経営を修得するためには、医療の特殊性を踏まえ、ヒト、モノ、カネ、情報のマネジメントを学修する必要がある。このため、経営学・経済学系科目、医療・医学系科目、情報学系科目をバランスよく配置し、多様な専門領域を効果的に学修できるカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 少人数教育の充実</li> </ol> <p>各学年に少人数による演習科目を必修科目として配置している。とりわけ3年次の「専門演習Ⅰ・Ⅱ」では、少人数グループによる演習を通じ、医療経営に関わる多様な問題をテーマに、議論、調査、討論などを行い、問題を発見する力、解決する力を修得する。4年次の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」では、医療経営を修得した集大成として、その成果を論文にまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 実践的な演習・実習科目の充実</li> </ol> |

医療施設における最新の管理手法を学ぶために、実際の医療施設の情報システムを基にしたシミュレーションを行うなど現場に即した実践的な演習科目を数多く配置している。

また、医療施設や医療関連企業など、現場へのフィールドワークを実施する実習・演習科目を配置している。講義科目で学んだ知識を実践する感覚と能力を修得する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）

（概要）  
より健やかで豊かな社会を実現するために、広い視野から医療経営を探求し、医療と社会との関わりに興味のある、向上心のある人材。

＜入学前に修得が望まれる知識・力＞

- ・周囲と協働し、相手の気持ちを理解するとともに自分の考えを論理的に伝えることのできる力。
- ・他者に高い関心をもち、社会を理解しふれあう力。
- ・文章を読解し要約する力。

学部等名 健康科学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

（概要）地域社会の一員として、他者とともに協働しながら、あらゆるひとの自己実現と社会参加を促進し、誰もがしあわせになる社会づくりに貢献できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

- 1) 社会福祉に関する価値、知識、援助技術を修得している。
- 2) 豊かな人間性を土台に、専門的な学びを深めながら、さまざまな生活上の問題を抱えた人びとの支援および地域社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

（概要）  
社会福祉学の学びを基盤として、医療福祉学・精神保健福祉学に関する専門的知識・技術・態度の修得を教育研究上の目的とし、その達成のために以下のカリキュラムを編成する。

- 1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、社会福祉士・精神保健福祉士としての倫理観および職業観を養い、多職種連携に必要な協働能力を育む。スタンダード科目とオプション科目では個々の豊かな人間性と自主的に課題発見、探求する姿勢を育む。
- 2) 専門基礎科目では、現代社会と福祉において社会福祉の根本理論について学ぶ。
- 3) 全学年に配当されている専門科目では、社会福祉、精神保健福祉に必要とされる基本的知識を修得するとともに、社会福祉、精神保健福祉の各分野に必要とされる専門知識を学ぶ。さらに、社会福祉援助技術演習、精神保健福祉援助演習において実践のための技術を身につけ、各現場実習を通じて実践能力と社会福祉専門職としての人間性を育む。
- 4) 広く福祉マインドを持ったひとの育成を目的として、福祉の学びを活かし福祉

|   |
|---|
| <p>教育に従事する力を養う。</p> <p>5) 4年間の集大成としての卒業研究では、専門職業人として必要な問題分析能力、論理的思考能力、情報発信能力を身につける。</p>   |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）</p> <p>（概要）<br/>人が人を支援する対人援助に興味があり、思いやりを持って人に接することのできる人材。</p> <p>＜入学前に修得が望まれる知識・力＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人を思いやり共感できる力。</li> <li>・文章を適切に読解する力。</li> <li>・自分の考えを文章化する力。</li> <li>・社会の動きに関心を持ち、情報収集する力。</li> </ul>  |
| <p>学部等名 健康科学部 医療福祉学科 介護福祉学専攻</p>  |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）地域社会の一員として、他者とともに協働しながら、あらゆるひとの自己実現と社会参加を促進し、誰もがしあわせになる社会づくりに貢献できる人材を育成する。</p>  |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>1) 利用者の生活状況を的確に把握し、根拠に基づいた個別の生活支援ができる。<br/>2) 豊かな人間性を土台に、専門的な学びを深めながら、介護福祉専門職として利用者の「尊厳と自立を支えるケア」が実践できる。</p>   |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）<br/>社会福祉学の学びを基盤として、介護福祉学に関する専門的知識・技術・態度の修得を教育研究上の目的とし、その達成のために以下のカリキュラムを編成する。</p> <p>1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、多職種連携の意味を理解し、チームアプローチを実践するための豊かな人間性と対話力を身につける。スタンダード科目とオプション科目では個々の豊かな人間性と自主的に課題発見、探求する姿勢を育む。</p> <p>2) 専門職連携教育や専門科目を通して、自らの専門職としての価値や位置づけを理解し専門的知識、技術を身につける。</p> <p>3) 介護福祉を必要とする人々の暮らしの場において提供される多様な介護サービスを知り専門職として求められる実践力を理解し学ぶ。</p> <p>4) 広く福祉マインドを持ったひとの育成を目的として、福祉の学びを活かし福祉教育に従事する力を養う。</p> <p>5) 4年間の集大成としての卒業論文において、専門職業人として介護福祉の視点を多角的に学び問題意識と解決能力をつける。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）</p>  |

|   |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>人が人を支援する対人援助に興味があり、思いやりを持って人に接することのできる人材。</p> <p>&lt;入学前に修得が望まれる知識・力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人を思いやり共感できる力。</li> <li>・文章を適切に読解する力。</li> <li>・自分の考えを文章化する力。</li> <li>・社会の動きに関心を持ち、情報収集する力。</li> </ul>  |
| <p>学部等名 健康科学部 医療福祉学科 保育福祉学専攻</p>  |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページ)</p> <p>(概要) 地域社会の一員として、他者とともに協働しながら、あらゆるひとの自己実現と社会参加を促進し、誰もがしあわせになる社会づくりに貢献できる人材を育成する。</p>  |
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもをとりまく環境を深く理解し、子どもの最善の利益を考えた支援ができる。</li> <li>2) 豊かな人間性を土台に、専門的な学びを深めながら、保護者や地域と連携した「子育て・子育ち・親育ち・地育ち」支援ができる。</li> </ol>   |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページ)</p> <p>(概要)</p> <p>社会福祉学の学びを基盤として、保育福祉学に関する専門的知識・技術の修得を教育研究上の目的とし、その達成のため以下のカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、多職種連携の意味を理解し、実践するための専門的知識・技術を身につける。スタンダード科目とオプション科目では個々の豊かな人間性と自主的に課題発見、探求する姿勢を育む。</li> <li>2) 自らの子ども観、保育観、福祉観を養うために、演習・実習を通して、体験的に学ぶ。</li> <li>3) 子どもをめぐる社会状況を多角的・構造的にとらえ、ソーシャルワークの視点に立った専門的知識・技術を身につける。</li> <li>4) 広く福祉マインドを持ったひとの育成を目的として、福祉の学びを活かし福祉教育に従事する力を養う。</li> <li>5) 4年間の集大成としての卒業研究では、専門職業人として必要な問題分析力、論理的思考、問題解決力を培う。</li> </ol> |
| <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項)</p> <p>(概要)</p> <p>人が人を支援する対人援助に興味があり、思いやりを持って人に接することのできる人材。</p> <p>&lt;入学前に修得が望まれる知識・力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人を思いやり共感できる力。</li> <li>・文章を適切に読解する力。</li> <li>・自分の考えを文章化する力。</li> <li>・社会の動きに関心を持ち、情報収集する力。</li> </ul>  |
| <p>学部等名 看護学部 看護学科</p>   |

|  |
|--|
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）生命の尊厳と個人の尊重を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、看護の知識・技術を習得し、質の高い看護が展開できるよう、実践力・応用力・判断力を養い、広く社会に貢献できる人材を育成する。</p>   |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>1) 人間を取り巻く社会や環境をふまえ、看護の対象となる人々の健康問題をアセスメントする基本的能力を身につけている。</p> <p>2) 生物的・心理的・社会的存在である人間の健康について、生・老・病・死の各視点で心と体の両面から理解するとともに、人々の尊厳と権利を擁護しつつ援助関係を形成できる。</p> <p>3) 看護の基本となる姿勢や考え方を理解し、看護の対象者に対する援助の基本的な方法を身につけ、実践できる。</p> <p>4) 人間の成長・発達や健康のレベルに応じた、科学的根拠に基づく看護の方法を身につけ、実践できる。</p> <p>5) 医療や看護に関する知識、技術、実践的態度をより深め、多職種で連携・協働し、総合的な視点から看護を実践できる。</p> <p>6) 将来にわたって自己研鑽できる能力と自らの考えを発信できる能力を身につけ、看護における課題を見いだして解決し、成果を発表できる。</p>  |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）</p> <p>教育研究上の目的は、『生命の尊重と個人の尊厳を基幹とした、人間性豊かな人格の育成である。看護学に関する専門知識と看護技術、看護職者としての態度を修得し、実践力・応用能力・判断力を養い、医療ニーズの高度化・多様化に伴う社会的要請に対して的確に応えられるよう、広い視野と倫理観を養う。そして、健康・医療・福祉に貢献できる能力と研究心を養い、国内外で貢献できる人材を育成する。』である。この目的を達成するために、カリキュラムを編成する。</p> <p>1) 初年次から始まる専門職連携教育を通じて、看護専門職者としての倫理観および職業観を養い、健康・医療・福祉に関わる様々な専門職について学び、チームとして協働することについての理解を深める。主に1～2年次に学ぶスタンダード科目とオプション科目では、社会人としての常識や幅広い視野を備え、人間と社会を理解することを目標とする。</p> <p>2) 主に1～2年次に学ぶ「人体の構造と生理機能Ⅰ、Ⅱ」「臨床病態学Ⅰ～Ⅲ」などの専門基礎科目では、専門科目の理解に必要な幅広い知識を修得する。</p> <p>3) 専門科目については、1～2年次に学ぶ基礎看護学系の各科目において、看護職者として必要な基礎的な知識・技術および態度を修得したうえで、2～3年次に学ぶ成人看護学系、老年看護学系、小児看護学系、母性看護学系、精神看護学系および在宅看護学系の各科目において、より高度で専門的な知識と技術を修得する。</p> <p>4) 3～4年次に学ぶ「看護管理学」「緩和ケア論」「救急看護論」「統合看護学実習」などの統合看護学系の各科目では、医療や看護に対する知識・技術および実践的態度をより深め、広い視点から看護を理解する。</p> <p>5) 4年間を通じて、「研究方法論」「卒業研究」「看護学総合演習」などの科目では、看護職者に必要な生涯学習・自己研鑽能力、研究的態度および発信力を修得する。</p> <p>6) 保健師課程は選択制とする。2～4年次に学ぶ「公衆衛生看護学各論Ⅰ～Ⅲ」</p> |

|   |
|---|
| <p>「公衆衛生看護学演習Ⅰ、Ⅱ」「公衆衛生看護学実習Ⅰ、Ⅱ」などの科目では、行政・産業・学校などの地域やコミュニティを対象とした公衆衛生看護の知識と技術を修得する。</p>   |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）</p> <p>（概要）<br/>健康・医療・福祉に関心をもち、看護の基礎的・専門的な知識・技術を修得し、広く社会に貢献したいという熱意をもった人材。<br/>＜入学前に修得が望まれる知識・力＞<br/>・文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりする力。<br/>・数学における基礎的な知識と、それらを活用する力。<br/>・科学的に探究する力や態度と、生物や生命現象に対する知識。<br/>・情報および情報技術を活用するための知識と力。</p>  |
| <p>学部等名 薬学部 薬学科</p>   |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）専門的知識および優れた技能に加え、豊かな感性と心を持ち、広く社会に貢献できる「人間味あふれる薬剤師」を育成する。</p>  |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>1) 医療人としての命の尊厳を理解し、ひとに寄りそえる豊かな人間性と高い倫理観を有している。<br/>2) 薬の専門家としての幅広い総合的な知識や技能を身につけるとともに、薬学・医療の進歩のために問題を発見し、科学的視点に基づき解決する能力を有している。<br/>3) 患者の様々な病態や状況に応じ、倫理的に裏付けられた最適な薬物療法を実践する能力を有している。<br/>4) 地域および社会における保健・医療・福祉の発展に寄与する意欲と態度を有している。<br/>5) 患者中心の医療を行うために必要なコミュニケーション力を身につけ、チーム医療に貢献する意欲と態度を有している。<br/>6) 生涯にわたり主体的に学び続ける意欲を持ち、次世代の社会に必要な人材を育成する使命感を有している。</p>                                       |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>（概要）<br/>本学の教育は「命の尊厳と豊かな人間性」の基本理念の追求に基づいている。薬学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質、能力を身につけるために、6年間の薬学教育を通じて以下に示す教育科目を編成する。それぞれの教育科目については、学修成果基盤型教育（OBE）を念頭に各分野において適切な学習方略（学習方法と学習資源）を選択する。また、学修評価についてはアセスメント・ポリシーに記す方針に従い、採用した学修方略に対応する適切な評価方法を選択する。<br/>1) 命の尊厳の理解および豊かな人間性と倫理観の育成<br/>命の尊厳の理解や倫理観を身につけるために、入学から卒業までを通して倫理・ヒューマニズム教育を実施する。さらに、特定の知識に偏らない幅広い教養と豊かな人間性を身につけるために、低学年次から人文・社会・自然科学・国際系・言語系の科目を</p> |

配置する。

2) 薬学・医療の進歩のために問題を発見し、科学的視点に基づき解決する能力

薬学に必要な幅広い科学的知識・技能・態度を身につけるために、全学年を通して体系的に専門科目を配置する。さらに、薬学・医療の進歩のために問題を発見し、科学的な視点に基づき解決する能力を身につけるために、能動的な学習を取り入れた演習や実習および卒業研究を配置する。

3) 理論に裏付けられた最適な薬物療法を実践する能力

主体的に薬物療法を実施、評価するためには、病態の理解、薬物の知識、患者の全人的理解などが必要である。そこで、低学年次から基礎および医療、臨床に関する知識・技能などを修得するために、講義・演習・実習を体系的に配置する。そして、医療の高度化に対応するために、より専門的・実践的な臨床科目を高学年次に配置する。

4) 地域および社会の保健・医療・福祉の発展に寄与する意欲と態度

地域、社会における薬剤師の役割や重要性を理解し、専門性を発揮することによって地域、社会の保健・医療・福祉における問題点を解析し、地域医療の向上に貢献する意欲・態度を身につける。そこで、低学年次より実務家教員による講義および保健・医療・福祉に関する講義・実習を体系的に配置する。

5) 患者中心のチーム医療に必要なコミュニケーション力

医療の現場において、薬剤師が自分の専門職能を最大限に発揮して医療に貢献するためには、患者・家族との対話、医療に係る多職種との連携が必須であり、多職種の理解と基本的知識、およびコミュニケーション力が要求される。そこで、入学時より実務家教員による講義、少人数でグループ討論をする演習・実習を体系的に配置するとともに、複数の医療系学科と共同で学ぶ合同演習科目および多職種連携教育科目などを配置する。

6) 自己研鑽と次世代の人材育成

日々進歩する医療に対応するために、生涯にわたり主体的に学び続け、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を身につける。そこで、少人数のグループでの学習および研究の成果に対する適切なフィードバックを繰り返し、自己分析をする演習や実習を配置する。さらに、他者と相互理解し、指導や議論、発表ができるように、グループ討論および発表会を取り入れた演習や実習、および卒業研究を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、入試ガイド、入学試験要項）

（概要）

建学の精神、教育に関する基本方針、ディプロマ・ポリシーを理解し、専門的知識・技能を兼備した「ひとに寄りそえる薬剤師」として、新しい時代の医療に貢献するという強い志を有する学生。

<入学前に修得が望まれる知識・力>

- ・自然科学、生命や医療に関する探究心を持ち、自主的・積極的に学び続ける態度。
- ・適切なコミュニケーションを行うために、自分の考えを論理的に他者に伝えるだけでなく、他者の表現を正しく理解する語学力・態度。
- ・基礎的な自然科学の知識および数的処理能力（理科[物理、化学、生物]、数学）。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者）                        |        |   |     |     |     |           |      |
|------------------------------------|--------|---|-----|-----|-----|-----------|------|
| 学部等の組織の名称                          | 学長・副学長 | 教授  | 准教授 | 講師  | 助教  | 助手<br>その他 | 計    |
| —                                  | 3人     | —   |     |     |     |           | 3人   |
| 保健医療                               | —      | 18人   | 9人  | 12人 | 4人  | 2人        | 45人  |
| 総合リハビリテーション                        | —      | 16人   | 9人  | 12人 | 3人  | 0人        | 40人  |
| 医療福祉                               | —      | 7人  | 6人  | 4人  | 1人  | 0人        | 18人  |
| 医療経営                               | —      | 6人  | 3人  | 3人  | 0人  | 0人        | 12人  |
| 心理科                                | —      | 0人  | 0人  | 0人  | 0人  | 0人        | 0人   |
| 心理                                 | —      | 4人  | 6人  | 3人  | 1人  | 0人        | 14人  |
| 健康科                                | —      | 5人  | 6人  | 3人  | 2人  | 1人        | 17人  |
| 健康スポーツ                             | —      | 5人  | 1人  | 2人  | 1人  | 0人        | 9人   |
| 看護                                 | —      | 7人  | 11人 | 7人  | 6人  | 6人        | 37人  |
| 薬                                  | —      | 15人   | 14人 | 9人  | 11人 | 0人        | 49人  |
| 医療栄養                               | —      | 7人  | 1人  | 1人  | 1人  | 3人        | 13人  |
| b. 教員数（兼務者）                        |        |   |     |     |     |           |      |
| 学長・副学長                             |        | 学長・副学長以外の教員   |     |     |     |           | 計    |
| 0人                                 |        | 110人  |     |     |     |           | 110人 |
| 各教員の有する学位及び業績<br>（教員データベース等）       |        | 公表方法： <a href="http://www.hirokoku-u.ac.jp/resercher/index.html">http://www.hirokoku-u.ac.jp/resercher/index.html</a> |     |     |     |           |      |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） |        |   |     |     |     |           |      |
|                                    |        |   |     |     |     |           |      |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 |             |             |        |             |             |        |           |           |
|-------------------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|
| 学部等名                    | 入学定員<br>(a) | 入学者数<br>(b) | b/a    | 収容定員<br>(c) | 在学生数<br>(d) | d/c    | 編入学<br>定員 | 編入学<br>者数 |
| 保健医療                    | 220人        | 237人        | 107.7% | 820人        | 826人        | 100.7% | 0人        | 0人        |
| 総合リハビリテーション             | 180人        | 191人        | 106.1% | 660人        | 699人        | 105.9% | 0人        | 0人        |
| 医療福祉                    | 0人          | 0人          | 0%     | 320人        | 209人        | 65.3%  | 20人       | 1人        |
| 医療経営                    | 0人          | 0人          | 0%     | 270人        | 259人        | 95.9%  | 0人        | 0人        |
| 心理科                     | 0人          | 0人          | 0%     | 0人          | 2人          | 2.0%   | 0人        | 0人        |
| 心理                      | 0人          | 0人          | 0%     | 290人        | 264人        | 91.0%  | 20人       | 2人        |
| 健康科                     | 350人        | 268人        | 76.5%  | 350人        | 268人        | 76.5%  | 0人        | 0人        |
| 健康スポーツ                  | 70人         | 76人         | 108.5% | 70人         | 76人         | 108.5% | 0人        | 0人        |
| 看護                      | 120人        | 129人        | 107.5% | 500人        | 474人        | 94.8%  | 20人       | 0人        |

|      |       |       |       |       |       |       |     |    |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|----|
| 薬    | 120人  | 118人  | 98.3% | 720人  | 623人  | 86.5% | 0人  | 0人 |
| 医療栄養 | 0人    | 0人    | 0%    | 180人  | 153人  | 85%   | 0人  | 0人 |
| 合計   | 1060人 | 1019人 | 96.1% | 4180人 | 3853人 | 92.1% | 60人 | 3人 |
| (備考) |       |       |       |       |       |       |     |    |

| b. 卒業生数、進学者数、就職者数  |                |                 |                   |                  |
|--|----------------|-----------------|-------------------|------------------|
| 学部等名   | 卒業生数           | 進学者数            | 就職者数<br>(自営業を含む。) | その他              |
| 保健医療学部   | 193人<br>(100%) | 11人<br>( 5.7%)  | 163人<br>( 84.5%)  | 19人<br>( 9.8%)   |
| 総合リハビリテーション学部  | 132人<br>(100%) | 3人<br>( 2.3%)   | 119人<br>(90.2%)   | 10人<br>( 7.6%)   |
| 医療福祉学部   | 75人<br>(100%)  | 2人<br>( 2.7%)   | 71人<br>( 94.7%)   | 2人<br>( 2.7%)    |
| 医療経営学部   | 77人<br>(100%)  | 1人<br>( 1.3%)   | 67人<br>( 87.0%)   | 9人<br>( 11.7%)   |
| 心理科学部  | 1人<br>(100%)   | 0人<br>( 0%)     | 0人<br>( 0%)       | 1人<br>( 100%)    |
| 心理学部   | 69人<br>(100%)  | 12人<br>( 17.4%) | 51人<br>( 73.9%)   | 6人<br>( 8.7%)    |
| 看護学部   | 104人<br>(100%) | 5人<br>( 4.8%)   | 92人<br>( 88.5%)   | 7人<br>( 6.7%)    |
| 薬学部  | 113人<br>(100%) | 0人<br>( 0%)     | 55人<br>( 48.7%)   | 58人<br>( 51.3%)  |
| 医療栄養学部   | 55人<br>(100%)  | 0人<br>( 0%)     | 54人<br>( 98.2%)   | 1人<br>( 1.8%)    |
| 合計   | 819人<br>(100%) | 34人<br>( 4.2%)  | 672人<br>( 82.1%)  | 113人<br>( 13.8%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項)<br>独立行政法人国立病院機構中国四国グループ、マツダ株式会社マツダ病院、広島市 ほか |                |                 |                   |                  |
| (備考)   |                |                 |                   |                  |

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項) |             |                 |           |           |           |
|---|-------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 学部等名                                      | 入学者数        | 修業年限期間内<br>卒業生数 | 留年者数      | 中途退学者数    | その他       |
|   | 人<br>(100%) | 人<br>( %)       | 人<br>( %) | 人<br>( %) | 人<br>( %) |
|   | 人<br>(100%) | 人<br>( %)       | 人<br>( %) | 人<br>( %) | 人<br>( %) |
| 合計  | 人<br>(100%) | 人<br>( %)       | 人<br>( %) | 人<br>( %) | 人<br>( %) |
| (備考)                                      |             |                 |           |           |           |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

|   |
|---|
| (概要)<br>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を毎年授業担当教員が作成し、学科長による内容確認の上、3月末日に次年度のシラバスを大学のホームページに公表している。学生へは前期および後期開始前に実施する履修ガイダンスにて周知している。 |
|---|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

|   |
|---|
| (概要)<br>すべての学部において学生に学位を授与するに当たり、学生が卒業までに修得すべき資質や能力を含めた学位授与の方針(ディプロマポリシー)を定めており、ホームページにて公表している。具体的な認定については、教授会にて修得単位数を基に卒業判定を行っている。 |
|---|

| 学部名               | 学科名                                       | 卒業に必要となる単位数                             | GPA制度の採用<br>(任意記載事項) | 履修単位の登録上限<br>(任意記載事項) |
|-------------------|---|---|----------------------|-----------------------|
| 保健医療学部            | 診療放射線学科                                   | 130 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
|                   | 医療技術学科                                    | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
|                   | 救急救命学科                                    | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| 総合リハビリテーション学部     | リハビリテーション学科<br>(2020 年度入学者)               | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
|                   | リハビリテーション学科<br>理学療法専攻<br>(2019 年度以前入学者)   | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
|                   | リハビリテーション学科<br>作業療法専攻<br>(2019 年度以前入学者)   | 131 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
|                   | リハビリテーション学科<br>言語聴覚療法専攻<br>(2019 年度以前入学者) | 128 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
|                   | リハビリテーション支援学科                             | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| 医療福祉学部            | 医療福祉学科                                    | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| 医療経営学部            | 医療経営学科                                    | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| 心理学部              | 心理学科                                      | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| 看護                | 看護学科                                      | 128 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| 薬                 | 薬学科                                       | 186 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| 医療栄養              | 医療栄養学科                                    | 125 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| 健康科学部             | 心理学科                                      | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
|                   | 医療栄養学科                                    | 125 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
|                   | 医療経営学科                                    | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
|                   | 医療福祉学科                                    | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| 健康スポーツ学部          | 健康スポーツ学科                                  | 124 単位                                  | ○・無                  | 半期ごとに 24 単位           |
| GPAの活用状況 (任意記載事項) |   | 公表方法：履修申請要領に記載し、新入生に配付するとともに、大学HPに掲載する。 |                      |                       |

|                            |       |
|----------------------------|-------|
| 学生の学修状況に係る参考情報<br>(任意記載事項) | 公表方法： |
|----------------------------|-------|

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

|  |
|--|
| 公表方法： <a href="http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/facility/index.html">http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/facility/index.html</a><br><a href="http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/campus/index.html">http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/campus/index.html</a> |
|--|

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

【2020 年度入学者】※その他（教育充実費）については、1 年次の徴収額

| 学部名         | 学科名       | 授業料<br>(年間) | 入学金       | その他       | 備考（任意記載事項） |
|-------------|-----------|-------------|-----------|-----------|------------|
| 保健医療        | 診療放射線     | 1,430,000 円 | 250,000 円 | 90,000 円  | 教育充実費      |
|             | 医療技術      | 1,430,000 円 | 250,000 円 | 90,000 円  | 教育充実費      |
|             | 救急救命      | 1,430,000 円 | 250,000 円 | 90,000 円  | 教育充実費      |
| 総合リハビリテーション | リハビリテーション | 1,430,000 円 | 250,000 円 | 90,000 円  | 教育充実費      |
| 健康スポーツ      | 健康スポーツ    | 1,030,000 円 | 250,000 円 | 90,000 円  | 教育充実費      |
| 健康科学        | 心理        | 1,030,000 円 | 250,000 円 | 50,000 円  | 教育充実費      |
|             | 医療経営      | 1,030,000 円 | 250,000 円 | 50,000 円  | 教育充実費      |
|             | 医療福祉      | 1,030,000 円 | 250,000 円 | 50,000 円  | 教育充実費      |
|             | 医療栄養      | 1,030,000 円 | 250,000 円 | 90,000 円  | 教育充実費      |
| 看護          | 看護        | 1,430,000 円 | 250,000 円 | 90,000 円  | 教育充実費      |
| 薬           | 薬         | 1,720,000 円 | 250,000 円 | 100,000 円 | 教育充実費      |

【2017～2019 年度入学者】※その他（教育充実費）については、2 年次以降の徴収額

| 学部名         | 学科名         | 授業料<br>(年間) | 入学金 | その他       | 備考（任意記載事項） |
|-------------|-------------|-------------|-----|-----------|------------|
| 保健医療        | 診療放射線       | 1,430,000 円 | 0 円 | 200,000 円 | 教育充実費      |
|             | 医療技術        | 1,430,000 円 | 0 円 | 200,000 円 | 教育充実費      |
| 総合リハビリテーション | リハビリテーション   | 1,430,000 円 | 0 円 | 200,000 円 | 教育充実費      |
|             | リハビリテーション支援 | 1,430,000 円 | 0 円 | 200,000 円 | 教育充実費      |
| 医療福祉        | 医療福祉        | 1,030,000 円 | 0 円 | 150,000 円 | 教育充実費      |
| 医療経営        | 医療経営        | 1,030,000 円 | 0 円 | 150,000 円 | 教育充実費      |
| 心理          | 心理          | 1,030,000 円 | 0 円 | 150,000 円 | 教育充実費      |
| 看護          | 看護          | 1,430,000 円 | 0 円 | 200,000 円 | 教育充実費      |
| 薬           | 薬           | 1,720,000 円 | 0 円 | 200,000 円 | 教育充実費      |
| 医療栄養        | 医療栄養        | 1,160,000 円 | 0 円 | 0 円       |            |

【2013～2016 年度入学者】

| 学部名         | 学科名         | 授業料<br>(年間) | 入学金 | その他 | 備考（任意記載事項） |
|-------------|-------------|-------------|-----|-----|------------|
| 保健医療        | 診療放射線       | 1,530,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
|             | 医療技術        | 1,530,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
| 総合リハビリテーション | リハビリテーション   | 1,530,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
|             | リハビリテーション支援 | 1,530,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
| 医療福祉        | 医療福祉        | 1,160,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
| 医療経営        | 医療経営        | 1,160,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
| 心理科         | 臨床心理        | 1,160,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
| 心理          | 心理          | 1,160,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
| 看護          | 看護          | 1,530,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
| 薬           | 薬           | 1,900,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |
| 医療栄養        | 医療栄養        | 1,160,000 円 | 0 円 | 0 円 |            |

【2012年度以前入学者】

| 学部名         | 学科名         | 授業料<br>(年間) | 入学金 | その他 | 備考(任意記載事項) |
|-------------|-------------|-------------|-----|-----|------------|
| 保健医療        | 診療放射線       | 1,500,000円  | 0円  | 0円  |            |
|             | 医療技術        | 1,500,000円  | 0円  | 0円  |            |
| 総合リハビリテーション | リハビリテーション   | —           | —   | —   |            |
|             | リハビリテーション支援 | —           | —   | —   |            |
| 医療福祉        | 医療福祉        | —           | —   | —   |            |
| 医療経営        | 医療経営        | —           | —   | —   |            |
| 心理科         | 臨床心理        | —           | —   | —   |            |
| 心理          | 心理          | —           | —   | —   |            |
| 看護          | 看護          | —           | —   | —   |            |
| 薬           | 薬           | 1,900,000円  | 0円  | 0円  |            |
| 医療栄養        | 医療栄養        | —           | —   | —   |            |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

|  |
|--|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組  |
| (概要)<br>本学では、教育活動の向上を推進し、学生の教育を全面的に支援することを目的として、「総合教育センター」を設置しており、様々な講座、学修相談や個別指導などの学生へのサポートを行っている。基礎学力の補強を行うことで大学における学修に対する安心感を与え、一人ひとりの能力の開花を促進し、本学の学生が自信をもって幅広い学修に取り組めるよう支援している。  |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組   |
| (概要)<br>・学生の進路をサポートする専門部署であるキャリアセンターでは、学生の進路に関する内容、就職活動に対する相談・助言を行っている。<br>・各学部、学科に対応した業界研究会、合同企業説明会、合同病院説明会、合同施設説明会等、採用担当者等を招いて説明会を実施している。<br>・学科の特性に合わせ就職ガイダンス、筆記対策支援講座、エントリーシート対策講座、履歴書作成指導、模擬面接、ビジネスマナー講座、就職情報サイト説明会、4年次生による就職活動体験報告会を実施している。<br>・求人情報や説明会情報等はメール配信および学内専用の情報配信システム(学内ポータルサイト)にて求人情報を開示している。<br>・求人情報や説明会情報等は掲示板やキャリアセンター内に配架し、情報を開示している。<br>・企業(病院・施設)説明会や採用試験を目的とした場合には、学園宿泊施設を低料金で利用することができる。 |
| c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組  |
| (概要)<br>各キャンパスに学生相談カウンセラーを配置し、相談可能な体制を整備している。また、障がい学生に対して事前に面談をおこない、希望者には授業に対する配慮を実施している。  |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <http://www.hirokoku-u.ac.jp/profile/disclosure/basicdata.html>

(別紙)【提出不要】

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

|      |  |
|------|--|
| 学校名  |  |
| 設置者名 |  |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

|                    |      | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|-----|-----|----|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） |      | 人   | 人   | 人  |
| 内<br>訳             | 第Ⅰ区分 | 人   | 人   |    |
|                    | 第Ⅱ区分 | 人   | 人   |    |
|                    | 第Ⅲ区分 | 人   | 人   |    |
| 家計急変による支援対象者（年間）   |      |     |     | 人  |
| 合計（年間）             |      |     |     | 人  |
| (備考)               |      |     |     |    |

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

|    |   |
|----|---|
| 年間 | 人 |
|----|---|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

|  | 右以外の大学等 |     |     |
|--|---------|-----|-----|
|  | 年間      | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定   | 人       | 人   | 人   |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下<br>(単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下) | 人       | 人   | 人   |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況                                      | 人       | 人   | 人   |
| 「警告」の区分に連続して該当   | 人       | 人   | 人   |
| 計  | 人       | 人   | 人   |
| (備考)   |         |     |     |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 |   | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） |   |     |   |
|---------|---|---|---|-----|---|
| 年間      | 人 | 前半期   | 人 | 後半期 | 人 |
|         |   |   |   |     |   |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

|         |   |
|---------|---|
| 退学      | 人 |
| 3月以上の停学 | 人 |
| 年間計     | 人 |

|      |
|------|
| (備考) |
|------|

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

|         |   |
|---------|---|
| 3月未満の停学 | 人 |
| 訓告      | 人 |
| 年間計     | 人 |
| (備考)    |   |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

|   | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの<br>に限り、認定専攻科を含む。）、<br>高等専門学校（認定専攻科を含<br>む。）及び専門学校（修業年限が<br>2年以下のものに限る。） |     |
|---|---------|---|-----|
|   | 年間      | 前半期   | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数<br>の6割以下<br>(単位制によらない専門学校に<br>あつては、履修科目の単位時間<br>数が標準時間数の6割以下) | 人       | 人   | 人   |
| GPA等が下位4分の1   | 人       | 人   | 人   |
| 出席率が8割以下その他<br>学修意欲が低い状況  | 人       | 人   | 人   |
| 計   | 人       | 人   | 人   |

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。